

福島広報

発行 福島地区小学校長会
責任者 会長 小島 英二
編集 同 広 報 部



【巻 頭 言】

ス ト ラ イ ク ゾ ー ン

福島市立三河台小学校長 小島 英二

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う臨時休業への対応に追われながら時は過ぎ、令和2年度の教育活動が実質2か月遅れで始まった。何も新学習指導要領全面実施の年に、定年を迎える年に、オリンピックの年に流行らなくても……と、愚痴の一つも言いたくなるであろう。考えようによっては、これまで誰もやったことのない長期臨時休業後の学校再開という状況の中での学校経営は、(いろいろと気を遣うことはあるだろうが)各学校の実情に合わせて教職員の知恵と工夫が存分に発揮されやすく、やりがいのあるものであろう。反面、各学校での工夫がストライクゾーンを外れていないか、不安になることもあるのではないか。

野球におけるストライクゾーンは、公認野球規則によって厳格に定められているが、それを適用するに当たっての球審一人一人のストライク・ボールの判断は、微妙に違うものである。ストライクゾーンど真ん中の判断は、恐らく誰が見ても同じであろう。問題はストライクゾーンすれすれのストライクかボールか見極めが難しいところに投げ込まれた時である。ある球審はストライクとコールし、別の球審は一瞬の間を置いてボールとコールする。「このバッターに打たせてあげたい」ということもあるかもしれないが、その判断に感情が入り込むことはない。あくまでも野球規則にある厳格なストライクゾーンを適用し、積み重ねてきた研修や経験をもとに判断していくのである。このように、定められたストライクゾーンの適用は各球審に任せられるため、「あの球審は内角がボール1/2個分甘い」とか、「あの球審はすれすれの外角高めはとらない」など、球審によってほんの少しの違いが出てくるのである。その一瞬の判断、球審によるほんの少しの違いが試合の勝負を分けることもある。

学校に例えるなら、さしずめ球審は校長、投げられるボールは、日々学校で発生する課題への対応策と言えるだろう。学校で校長の責任の下に実施される対応策が、ストライクゾーンに入っているか否か……。校長が自己の責任の下に実施する対応策がストライクなのかボールなのか、それを判断するのも球審である校長である。そして、その判断が試合の結果(=子どもの未来、学校への信頼)に直接結びつくものになる。私たちがストライク・ボールを判断する基準は、法律・条例・規則・通知などにあり、それらを的確に捉え、踏まえた上で判断を下さなければならない。また、下した判断とその判断の根拠は、明確に分かりやすい言葉で冷静に伝えることが求められる。これらを考えると、校長の責任は非常に重いものであることを改めて実感させられる。

私たち校長は、子どもの健康・安全を守りながら如何に教育の質を保証していくかという課題に直面している。

校長会は任意の研修団体であるが、学校経営の実務に関するO-J-Tの場であり、会員・関係者の様々な実践によるO f f-J-Tの場でもある。異なるストライクゾーンを摺り合わせて共通のストライクゾーンにしていくのはまぎれもなくO J Tの一環であり、校長会の大きな役割である。そのためにも、会員それぞれが、自分の判断と判断した根拠を情報交換し、その中で他の会員の判断・根拠に真摯に耳を傾けながら自分のストライクゾーンを修正していく謙虚さが何よりも大切であると自戒している。自分の考えをもつことは当然だが、「自分の考えが絶対的に正しい」という思い上がりや傲慢など、社会的存在である人間としてのストライクゾーンは外してはならないと思っている。



「自分のよさ」を生かして

福島市立立子山小学校長
五十嵐 修

4月1日、緊張の面持ちで立子山小学校の玄関を入りました。職員室の先生方にあいさつをし、校長室へ。ポツンと一人。大海原にたった一人投げ出された気持ちになりました。どのように学校の舵取りをしていけばよいのか。特に今年は、コロナウイルスという荒波にどう立ち向かっていけばよいのか…。様々な思いが、頭をよぎりました。

そんな時、ふと机上を見ると、諸先輩方からの励ましのメッセージがありました。思わず手にとって読んでみると、「先生のよさを生かして」という言葉が目飛び込んできました。「よさを生かす」ということ。私が常々考えてきたことであり、大切にしてきた言葉そのものでした。子どもたちのよさを生かすこと、教職員のよさを生かすこと、小規模校のよさを生かすこと、地域のよさを生かすこと、そして、私自身のよさを生かすこと…。そのためには、まずそれぞれの「よさ」を知ることが必要です。早速、職員会議で、子どもたちのよさ、学校のよさ、地域のよさについて、教職員に聞いてみました。きまりを守る、素直、まじめ、元気、仲がよい、凍み豆腐、朝河貫一博士…。学校経営のヒントとなりそうなキーワードがたくさん出てきました。また、始業式では、子どもたちに「自分のよさが言えますか?」と聞いてみました。子どもたちは自信なさそうにしていました。そこで「また聞きますので、1つでも2つでも言えるようになろう!」と話しました。

これからも、それぞれの「よさ」を見つけ、伸ばし、生かして、笑顔で生活していくことができるように声をかけていきたいと思えます。

まだまだ知識も乏しく、経験ありません。諸先輩方からのご助言、ご指導をいただきながら、職務に邁進していく覚悟です。どうぞよろしくお願いたします。



自分がどんな人間であるべきか

福島市立中野小学校長
白土 勲

新型コロナウイルス感染症の対応等、今まで経験したことのない対応が迫られる中、4月より福島市立中野小学校に着任いたしました。

覚悟をもって着任したつもりではありましたが、日々、校長としての責任の重さを痛感し、試行錯誤しながら、校長職に取り組んでいるのが現実であります。

中野小学校の子どもたちは、とても素直で純粋な子どもたちです。横断歩道を渡った後、必ず停まってくださった運転手さんに対して、丁寧に頭を下げて感謝の気持ちを伝えます。そんな子どもたちを心の底から愛おしく感じます。私も子どもたちを見習って、正門を通行する運転手の皆さん全員に頭を下げるようにしました。すると、2ヶ月たった今では、ほとんどの方が、会釈を返してくださるようになりました。学校に対して関心をもっていただいていることに、感謝の念が絶えないとともに、様々な方々に学校は支えていただいているのだということも実感しております。

保護者の皆様、地域の皆様、先生方の御協力・御支援をいただきながら、子どもたち一人ひとりの成長を後押ししていく、校長はその中の一人にすぎないのだということも、この2ヶ月間で再確認することができました。

子どもたちをどんな人間に育てたいかを考える前に、自分がどんな人間であるべきかが、問われるのだと思います。今後も、校長としてだけではなく、自分がどんな人間であるべきかを熟慮し、真摯に追求できるようにして参ります。

私の大切にしている言葉に、「凡時徹底」という言葉があります。目の前の事柄に対して丁寧に、そして誠実に対応していくことで、子どもたちが自分の夢に向かって自信をもって歩むことができる、そんな学校作りを目指して参ります。



信じる，任せる，育てる…

福島市立東湯野小学校長
瀬戸 和子

「私，卒業式にピアノを弾くんだ!？」

30代の頃，小規模の学校にいたとき，4月の早い時期に気づいてしまいました。

教員採用試験で，バイエル100番をやっと弾けた程度の「腕前」ですが，腹をくくって，なんと！6月から練習を始めました。

元同僚の音楽の先生に，簡単だけど聞こえ栄えるように，楽譜を直してもらいました。それを見て，毎晩，家のキーボードで，まず右手だけ練習しました。2学期になってからは，左手も。そして3学期になってからは，担任していた子どもたちの歌に合わせて弾くようにしました。しかし，これが全然だめ。歌われると，弾けなくなるのです。一度止まると，途中からは弾けません。

そんなある日，校長先生に相談しました。

「私，弾けません…。大事な卒業式で，失敗しそうです。」

すると，校長先生は，

「そんなこと，心配しないでください。瀬戸先生なら，大丈夫ですよ。」

優しく，そうおっしゃったのです。そのとき，自分の中から，安心と自信，そして使命感が湧いてきたことを，今でも覚えています。(校長先生が，そうおっしゃるなら，できる!)

卒業式当日。お世辞にも上手な伴奏ではありませんでした。でも，子どもたちの歌声を止めることなく，なんとか弾ききることができました。

今，校長の職に就き，あのときの校長先生の言葉が，なぜ私に力をくれるものであったのかを，改めて考えています。

教職員を信じる，任せる，育てる…。そのために，私のすべきことは何か。新米校長として，修行の日々が続きます。

御指導よろしくお願ひいたします。



全力で“恩返し”

福島市立金谷川小学校長
宍戸 与一

♪♪ホーホケキョ♪♪

ウグイスの鳴き声がこだましあっている中，

「おはようございます!!」

元気な声が響いてきます。

校門に立っている私の姿を見ると，離れたところから，大きな声であいさつ。子どもたちの明るく元気なあいさつを聞くたびに，校長としての責任の重さを痛感しています。

清掃の時間，労いの言葉をかけると，「ありがとうございます」と返す子ども。授業の様子を見ているとき，目が合うと，笑顔でそっと黙礼する子ども。上級生は，温かいまなざしで下級生をサポートし，下級生は上級生にあこがれをもって接しています。みんなとてもいい表情です。この一つ一つが，私にとっては心動かされる出来事です。

諸先輩方が築き上げてきた指導の賜であり，それを温かく見守り支えてくださった保護者・地域の皆様のおかげと改めて感じ，感謝しながら日々過ごしています。

豊かな自然のある学校での毎日は私にとって宝物です。先生方，子どもたちが一緒に笑顔でいられるよう私にできること，それは私自身も笑顔でいることだと思っています。地区校長会を始めとする先輩の校長先生方からのアドバイス，同期の新任校長先生方からの励ましも私の元気の源になっています。

奥山満前校長先生からバトンを渡されてから早2か月。未だに右往左往の毎日。これまでの校長先生方の“貯金”で暮らしているようなものです。

歴代の校長先生が腐心し，築き上げてきた“金谷川小ブランド”，しっかりと受け継ぎ伝えていきたいと思ひます。

今までお世話になった多くの方に，全力で“恩返し”です。



覚悟はあるか

福島市立下川崎小学校長
大内 伸一

赴任して1ヶ月が過ぎてなお、全校生と一堂に会した機会はまだ一度も持てておりません。75名の全児童の顔と名前を覚えることを当初目標に掲げていただけないにイライラの日々が続いています。それでも、分散登校で一人ひとりに声をかけると、「おはようございます。元気です。」と明るい返事に、心が温まります。やはり学校の主役は子どもなのだなどと改めて感じました。

校長という職をいただいたときに、「すべての子どもたちはあなた(校長)の子どもなのです。」と以前指導を受けたのを思い出し、それが現実になることに震えました。自分自身に「校長になる覚悟はあるか?」と自問しましたが、自信を持って答えることのできない己を情けないと感じました。

4月1日の職員会議の冒頭、校長としての思いを職員に伝えたところ、長い話に閉口したであろう職員たちが、その後私のところに来て先ほどの話について思い思いの感想を述べてくれたのは驚きでした。そのとき、私は「そうだ。この職員とともに学校を作るんだ。下川崎小には熱心な保護者と協力的な地域の方々もいる。みんなの力をまとめ上げるのが私の仕事だ。」と思った瞬間、肩が軽くなりました。

私は、校長とはオーケストラの指揮者に似ていると感じています。「指揮者は重要な役目ですが、いなくてもオーケストラは演奏できます。でも指揮者がいることでオーケストラの演奏はスリリングになる。」と福島県出身の世界的な指揮者である小林研一郎氏は言っています。ここから顧みれば、生き生きとした学校づくりのために校長はいるのではないかと思います。そのために自分の持てる力を発揮する覚悟はできました。



「有事」の校長として

福島市立平田小学校長
川名 健一

この4月に平田小学校長として着任いたしました。まだまだ未熟者ゆえ、いろいろとご迷惑をおかけすることと存じますが、ご指導、ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

さて、3月末に小学校長として赴任するにあたり、多くの先輩からお言葉をかけていただいたのですが、それは大きく分けて次の二つでした。

「これからは校長として大いに学校経営を楽しみなさい」という激励と「大雑把な君にきめ細かさや緻密さが必要な小学校長が務まるのか」という疑問の声です。確かに中学校での勤務経験しかなく、教諭時代は主に生徒指導畑を歩み、計画的に物事を進めるというよりは、突発的に起こる問題行動への対応や生徒の指導に多くの時間を費やしました。教頭昇任後も最初に赴任した中学校が僻地の小規模校であったため事務職が不在で、約半年間は学校事務の仕事に終始した覚えがあります。やっとな慣れてきたと思った矢先に、次年度からの「休校」が決まり、後半の半年は休校準備にシフトせざるを得ませんでした。このような経験から自分は平時よりは「有事」向きの教員なのだろうという自覚を持つようになりました。

しかし、新任校長として最初の仕事が、臨時休校対応及び学校再開になろうとは予測もつきませんでした。おまけに新任校長への研修等もすべて中止となり、ほぼ丸腰で、猛獣と対峙しているような気分です。学校再開後もコロナ禍にあつての学校生活(授業)の再構築、行事の再編成、授業時数の確保について様々な検討及び決定をしていますが、何とも言えない重責がのしかかっておりますが、「有事」の校長として、福島地区の校長会の先生方のご指導、ご助言をいただきながら、この難局を乗り切り、「平時」を取り戻していきたいと思っております。



地域に感謝，地域と共に

福島市立水保小学校長
井上 明浩

「新しい校長先生からのご挨拶と運動会についての学校としてのお考えをお聞かせください。」これは4月4日(土)の夜，学校近くの集会所で行われた「水保地区大運動会」打合せ会議が始まってまもなくのことでした。

例年水保地区は，学校と地域が合同で運動会を開催しています。水保地区の方々も子どもたちもとても楽しみにしている行事の一つです。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため，様々なイベントや学校行事が延期や中止となっています。打合せ会議の協議では，運動会を開催するべきか，延期にするべきか，競技内容を短縮するべきか，地域住民のことを考え悩んでいました。結局この日には判断することができませんでした。後日の打合せ会議の協議の結果，「子どもたちのために合同での運動会は中止にしましょう」ということでまとまりました。

水保地区は，永く居住している人が多く，地区民は協力的です。また，三世代同居の家庭がとても多いです。先日，臨時休業中に地域へ出向いていくと，祖父の畑仕事を手伝ったり，親子でなわとびをしていたりする児童の姿が見られました。また，児童養護施設「青葉学園」にもお邪魔し，園長先生と何度かお話をしました。今や青葉学園は，学校存続のためにも，そして地域振興のためにもなくてはならない施設だと感じました。臨時休業中，地域の方々とかかわることにより，学校は，「地域に感謝し，地域と共に」であることを改めて考えさせられました。

校長の職務，新型コロナウイルス対策など，今後も福島地区校長会の皆様にご指導いただきながら水保の子どもたちのために，地域のために精一杯努力していきたいと思えます。どうぞよろしくお願いたします。



共に力を合わせて

福島市立飯野小学校長
齋藤 亮一

「常に考え工夫する子ども・教職員」「常に感謝の気持ちをもつ子ども・教職員」新任校長として目ざす学校の姿を思い描きながら，4月1日飯野小学校に赴任しました。4月6日，笑顔あふれる子どもたちと新入学児童の保護者と関わり，子どもたち，職員，保護者，地域のために誠心誠意努力していかなければならないと決意を新たにしました。しかし，4月8日から，新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐための臨時休業となり，校長として，子どもたちの学習保障やストレスの軽減，今後の行事等の実施の有無等，頭を悩ませる毎日が続きました。

4月下旬に行われた職員会議，運動会を実施するかどうか協議していました。先生方から出された案はどれも，3密を回避するための方法や種目の精選，子ども，保護者への対応など，運動会を実施する前提で様々な工夫がなされたもので，子どもたち，保護者のために何とかしたいという熱い思いが，ひしひしと伝わってきました。結局運動会は2学期へと延期になりましたが，この本校の職員と共に力を合わせていけば，この難局を乗り越えていけると確信しました。

5月になり，分散登校が始まり，本校のある高学年の男子がこんなことを言っていました。「勉強は好きじゃなかったけど，友達と勉強するのは楽しい。早く学級の友達全員で勉強したい。」教室を回り子どもたちの様子を見ると，同じ思いの子どもが数多くいることが，授業に臨む真剣な眼差しから伝わってきました。

6月，学校が再開され，全員が登校しました。皆で共に力を合わせて，魅力ある学校を創っていきたいと思えます。

福島地区校長会の諸先輩の皆様，ご指導よろしくお願いたします。



新生活様式での給食

川俣町立川俣南小学校長
荒川 修

昨年度から続く新型コロナウイルス感染対策を考慮しながらの新年度のスタート。4月16日には1年生も給食を始めました。しかし、感染対策として、机を正面に向け、話は厳禁、静かに食べる。子どもたち、職員も皆、自分・みんなを守る新しいマナーによる給食時間となっていました。子どもたちに給食の感想を聞けば、おいしいとは答えますが、給食中の様子を見ると、表情がなく、黙々と食べる姿がほとんどでした。友達と楽しく会食というこれまでのイメージと異なり、正直、異様な光景のように感じました。

そこで、食育の一つとして、給食時間の放送をこれまでよりも活用できないかと考えました。本校には川俣町給食センターに勤務する栄養技師2名が所属しています。毎週水曜日には食の栄養などに関する話を校内放送で行っていました。これまでは会食やじっくりかむ時間の確保から、放送時間をできるだけ短くする傾向にありました。無言で食べている今、じっくり味を味わったり、食べるものをじっくりと見たりできる機会ととらえて、放送を考えてみるように働きかけました。

その後2人は放送の際に、問いかけをして話の間を上手くとったり、内容を工夫したりしてくれました。すると、子どもたちは具材の切り方や彩り等に興味をもったり、味付けのものは何かを考えたりしながらじっくり食べる姿が見られるようになってきました。表情も変わってきました。

状況に応じた新型コロナウイルス対策を今後も要する現状において、やがて独り立ちする子どもたちのために、やるべきことは何かを職員とともに考え、取り組んでいきたいと思えます。

今後も諸先輩方から、ご指導、ご助言いただき、職責を果たせるように努めていきます。どうぞよろしく願いいたします。

広報部活動について

福島地区広報部長

福島市立清水小学校長
松野 光伸

福島地区広報部は、会員相互の理解と連携を深め、地区小学校長会活動を活発に推進することを目的として、次のような編集方針のもと、今年度から年4回「広報福島」を発行する予定です。

- 1 校長職の機能の向上及び地区校長会の活動に寄与する内容を目指す。
- 2 課題性、適宜性、必要性、話題性に富んだ魅力ある広報誌を編集する。
- 3 全会員執筆を原則に、親しみと活力ある広報誌を編集する。

また、広報誌の内容は、「巻頭言」「学校経営の一端」「提言(特別寄稿)」「特集」「新会員紹介」「趣味・随筆」「各部だより」として、学校経営に資する内容を基本として会員の皆様に原稿の執筆をお願いしております。

特に、「特集」のテーマは、令和2年度の福島県小学校長会広報部の特集テーマである「たくましく生き ともによりよい未来を創っていく子どもの育成」を受けて、「質の高い教育の実現と教職員の資質向上」と設定し、各学校の取組を紹介していく予定です。

第1号におきましては、昇任された校長先生方の紹介を掲載した都合から「学校経営の一端」「特集」を割愛いたしましたことをご容赦願います。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の対応でご苦労もあると思いますが、会員の皆様の玉稿が、私たちに知恵と勇気を与えてくれるものと期待しております。どうぞよろしく願いいたします。

編集後記

日々、未経験の学校対応に追われる中、玉稿をお寄せくださった校長先生方に心より感謝申し上げます。先が見えないからこそ、校長会が一丸となって「ストライクゾーン」を共有する重要性を実感しました。 吉田 牧子